

風のたより

仙台青陵中等教育学校
第5学年だより NO 5
2020.4.23 発行

5学年に新しく入られた先生方の紹介は前号で終わりましたが、他の先生方に「読書のすすめ」を執筆いただき、今号で学年の先生全員のお話が載りました。お楽しみください。



読書のすすめ 特集号



英語科教員ですが、紹介する本は英語ではありません。(期待ハズレでごめんなさい。)
1冊目は『五月女ケイ子のレッツ!!古事記』古事記はご存じの通り日本書紀と並ぶ日本最古の歴史書で、日本国の成り立ち・神話について書かれた本。中1当時、現代語訳版とは言え読んでみて全く理解できなかつた(いや、理解できていないことに背を向けた)内容を大人になってから分かせてくれた本。シュールで効果的な挿絵をふんだんに使って(世間では漫画本と呼ぶらしい)面白可笑しく古事記を読むことができます。2冊目は『あんまりな名前』藤井青銅著。駅名や生物名など様々な分野の色々な名前についてその由来をまとめた本。その中でも「それはいくら何でもあんまりだ」と思われるものを物を集めたこちらも面白可笑しい文体で読みやすい本。ぜひ読んでみてください。(武田 英語科)

合成生物学の衝撃(須田桃子 著)の紹介

本書の前半は生物を人工的につくる方法の研究の歴史や仕組みを紹介しています。人工生命体をつくることに成功したクレイグ・ベンター氏は、生物を一から作るのではなく、人工的にDNAを合成することを研究目的としています。人工DNAを細胞に導入すると、分裂を繰り返しながら増殖していきます。

本書の後半は「合成生物学」をとりまく、研究費の背景や、カズオ・イシグロの代表小説「わたしを離さないで」を引き合いに出しての考察があります。題名に「衝撃」の二文字がある理由はここにあります。

第9章までありますが、章末の文が次の章の紹介で終わるので、思わず読み進めてしまう構成です。理系・文系を問わずぜひ読んでみてください。(高橋 理科)

『歴メシ! 世界の歴史料理をおいしく食べる』『英雄たちの食卓』(遠藤雅司 著)の二冊をおすすめしたいと思います。レオナルド・ダ・ヴィンチやジャンヌダルク、チンギス・ハンにビスマルクなど、みなさんも知っている歴史上の人物たちが一体どんなものを食べていたのか興味はありませんか?教科書には載っていない、そんな歴史上の偉人たちの食生活を知りながら、歴史の勉強も出来てしまうのがこの本の面白いところです。世界史が好きな人はもちろん、苦手な人も「あのクレオパトラやベートーヴェンはこんなものが好物だったのか!」なんてことを想像してみると世界史がもっと面白くなるんじゃないかと思います。実際のレシピも載っているので、機会があればぜひチャレンジしてみてください。(佐久間 社会科)

色々な本を紹介していただきました。このような社会状況では、図書館や書店でなかなか手に取ることが難しいとは思いますが、いつか機会があれば目を通して欲しいものです。